

令和2年度 有価証券報告書レビューの実施について

金融庁は、上場会社等から提出された有価証券報告書の記載内容について、より深度ある審査を行うため、各財務局、福岡財務支局及び沖縄総合事務局（以下「財務局等」という。）と連携して、有価証券報告書レビューを実施しています。令和2年度の有価証券報告書レビューについては、以下の内容で実施します。なお、過去の有価証券報告書レビューにおいて、フォローアップが必要と認められた会社についても、別途審査を実施します。

1. 審査対象会社

(1) 法令改正関係審査

令和2年3月31日以降を決算期末とする有価証券報告書の提出会社を対象として、平成31年1月に施行された「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」による改正（以下、「開示府令改正」という。）について、適切な記載がなされているかを審査します。

（「経営方針・経営戦略等」、「事業等のリスク」、「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」及び「監査の状況」が対象。）

なお、審査対象となる「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」に関する開示内容には、「経営方針・経営戦略等」、「事業等のリスク」及び「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」等における新型コロナウイルス感染症の影響に関する開示も含まれます。

また、上記に加え、企業会計基準委員会から議事概要「会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方」が公表されたこと（令和2年4月10日公表、同年5月11日追補版公表）を踏まえ、会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に係る仮定に関する「追加情報」の開示についても、本年度の有価証券報告書レビューの対象に含めて審査します。（注）

（注）上記議事概要では、「どのような仮定を置いて会計上の見積りを行ったかについて、財務諸表の利用者が理解できるような情報を具体的に開示する必要があると考えられ、重要性がある場合は、追加情報としての開示が求められる」とされています。また追補版では、「当年度に会計上の見積りを行った結果、当年度の財務諸表の金額に対する影響の重要性が乏しい場合であっても、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある場合には、新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定に関する追加情報の開示を行うことが財務諸表の利用者に有用な情報を与えることになると思われ、開示を行うことが強く望まれる」とされています。

「会計上の見積り」の開示は、投資家にとって有用な情報と考えられ、新型コロナウイルス感染症の影響のように不確実性が高い事象については、財務情報である追加情報において、会計上の見積りに用いた仮定をより具体的に開示することが強く期待されることから、「追加情報」の開示についても有価証券報告書レビューの審査対象に含めることにしました。

(2) 重点テーマ審査

以下のテーマに着目し、令和2年3月31日以降を決算期末とする有価証券報告書の提出会社の中から審査対象会社を選定します。

〔重点テーマ〕

- ・ セグメント情報（注1）
- ・ 顧客との契約から生じる収益（注2）

（注1）主に「セグメント情報等の開示に関する会計基準（企業会計基準第17号）」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針（企業会計基準適用指針第20号）」の適用状況を審査します。（指定国際会計基準を適用する会社に関しては、IFRS8号「事業セグメント」の適用状況を審査します。）

なお、開示府令改正により令和2年度から記述情報の充実が求められる経営方針・経営戦略等について、セグメントごとに説明されることが望ましいとされているところ、財務情報と記述情報の関連性、整合性にも留意してください。

（注2）主に指定国際会計基準を任意適用する会社を対象に、IFRS15号「顧客との契約から生じる収益」の適用状況を審査。会計処理や連結財務諸表の表示に加え、注記についても審査対象とします。

なお、「連結財務諸表作成における在外子会社等の会計処理に関する当面の取扱い（実務対応報告第18号）」により、日本基準を適用している提出会社が、連結決算手続上、IFRSに準拠して作成された財務諸表を利用して連結財務諸表を作成している場合には、当該連結財務諸表に含まれる在外子会社等の財務諸表も審査の対象になる可能性があることに留意してください。

(3) 情報等活用審査

適時開示や報道、提供された情報等を勘案し、審査対象会社を選定します。

2. レビューの実施方法

(1) 法令改正関係審査

① 調査票の提出依頼

財務局等から審査対象会社に対し、法令改正等により有価証券報告書の記載内容が変更又は追加された重要な事項についての調査票の記入・財務局等への提出を順次依頼します。

② 回答の審査

審査対象会社から提出を受けた調査票に基づき、法令等に照らして、開示の適正性を審査します。調査票の記載内容に不明点や疑問点がある場合には、別途質問を行います。

(2) 重点テーマ審査及び情報等活用審査

① 質問状の送付

審査対象会社に対し、テーマ等についての個別の質問状を財務局等から順次送付します。なお、質問内容には、以下のような観点も反映します。

- 法令や会計基準への形式的な準拠性のみでなく、投資者にとって十分に明瞭で理解し得る記載となっているか
- 重点テーマ以外の関連する事項について、確認すべき点はないか
- 有価証券報告書以外の開示書類（四半期報告書、内部統制報告書等）への影響はないか

② 回答の審査

財務局等より送付した質問状は、2週間程度の期日内に回答を受け、法令等及び一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に照らして、会計処理・開示の適正性等を審査します。回答内容に不明点や疑問点が残った場合には、追加で質問を行います。

(注) なお、本レビューにおける審査の終了をもって、有価証券報告書の開示の正確性が保証されるものではない点に留意してください。

また、証券取引等監視委員会と情報の共有を行う場合があります。

有価証券報告書レビュー（概要）

○ 有価証券報告書レビュー（以下「有報レビュー」という。）は、有価証券報告書の記載内容の適正性を確保するための審査の枠組みであり、従来から、金融庁及び財務局等が連携して実施しています。

○ 有報レビューは、具体的には、法令改正関係審査、重点テーマ審査及び情報等活用審査の3つを柱としています。

（1）法令改正関係審査

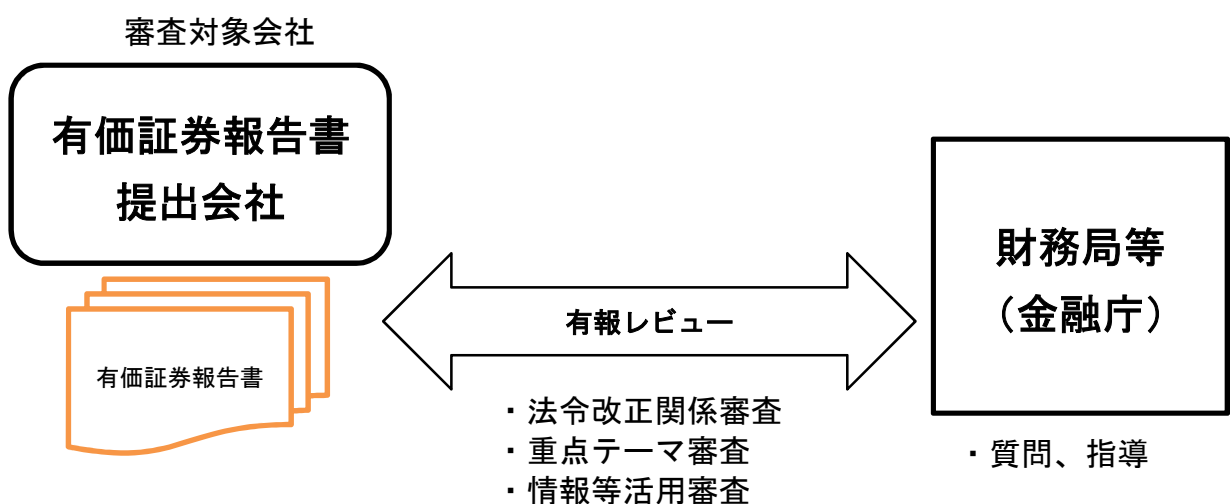
法令改正事項について行うもの。全ての有価証券報告書提出会社が対象となる。

（2）重点テーマ審査

特定のテーマに着目し、審査対象を抽出した上で、より深度ある審査を行うもの。審査対象となる会社には、所管の財務局等から個別の質問事項を送付する。

（3）情報等活用審査

上記に該当しない場合であっても、適時開示や報道、提供された情報等を勘案して行うもの。審査対象となる会社には、所管の財務局等から個別の質問事項を送付する。



(注) 必要な場合、金融商品取引法第26条に規定される報告徴取権限等が行使されることがあります。